

水と五平太が結ぶ都市間交流 ～ハイフォン市との姉妹都市締結～

北九州市総務企画局国際部アジア交流課交流係長 井上 由美子

北九州市の姉妹都市交流

北九州市は、九州の最北部に位置し、関門海峡を挟んで本州と隣接する人口約100万人の都市です。

1963年に門司、小倉、若松、八幡、戸畑の5市が対等合併をし、北九州市が誕生して以来、今年で半世紀が過ぎましたが、これまで、アメリカ・タコマ市、ノーフォーク市、中国・大連市、韓国・仁川広域市と姉妹・友好都市提携を行い、さまざまな分野で都市間交流を行ってきました。

北九州市のアジア政策

グローバル化の急速な進展、日本国内における少子高齢化・人口減少が進む中で、これまで積み重ねてきたアジア諸都市との都市間連携・交流や国際協力の実績を生かして、世界の成長センターである東アジアの成長エネルギーを本市の経済や文化に取り込むことで、「アジアにおける北九州市」として、新しい活力に転換していくことが、一層重要になっています。

このような中、本市では、長期構想に掲げる都市ブランド「世界の環境首都」と「アジアの技術都市」に基づき、「環境」と「アジア」をキーワードとした国際政策を進めています。

これまでに、国際協力によるアジア諸都市とのネットワークを構築してきたほか、本市主導で発足させた「東アジア経済交流推進機構」(注1)を基盤とした都市間相互連携の形成を推進するなど、アジア諸都市との幅広い交流を拡大させてきました。

今後とも、市民や産業界などが一体となって、アジアの各都市と、重層的で双方の利益となる国際連携・協力を進め、まちづくりに厚みを増していくことを目指しています。

ハイフォン市との交流

(1) 北九州市とハイフォン市のつながり

近年、製造業者の輸出拠点として注目されている東南アジアは、今後、経済統合により域内関税が撤廃され、規制緩和による物流の時間短縮が進むなど、製造拠点としての魅力がますます高まると期待されています。

また、インド・中国の巨大市場に近いだけでなく、域内にも約6億人の人口を有し、市場としての成長も見込まれています。

その中でもベトナムは、優秀で豊富な労働力、人口約9,000万人の市場、急速に進むインフラ整備などを背景に経済成長を続けており、日本企業の取り引きや投資も、益々拡大すると見込まれています。

このような中、本市は、ベトナムの都市との交流可能性について検討を行い、日本の政令指定都市に近い直轄市の中でも、北九州市と似た港湾・産業都市であり、首都ハノイと一体となった発展が期待されるハイフォン市と、2009年に友好・協力協定を締結し、両市の間での交流を始めました。

(2) ハイフォン市とのこれまでの交流

本市とハイフォン市は、2009年に友好・協力協定を締結して以来、さまざまな分野で交流・協力事業を行ってきました。

① 上下水道分野

ハイフォン市からの要請で、水道分野の国際技術協力を実施した結果、同市の小規模浄水場に、北九州市の高度浄水処理技術(U-BCF)が導入されました。

② 環境分野

ハイフォン市への都市環境インフラ輸出に向けた調査を実施し、同市の「グリーン成長計画」策定への支援を行うことになりました。

③経済分野

ハイフォン市企業と本市企業との商談の場を設定したことが、両市企業間のビジネス拡大につながりました。

④文化・教育・人材育成・市民交流ほか

ハイフォン市のイベントに本市の郷土芸能「若松五平太ばやし」（注2）が参加するなど両市市民の交流が行われました。

また、自治体職員協力交流事業（LGOTP）などを活用しハイフォン市職員を研修生として受け入れたことにより、両市のブリッジ人材の育成も進みました。

ハイフォン市との姉妹都市締結について

2009年締結の友好・協力協定が本年4月に5年間の期限を迎えることから、これらの交流成果を踏まえハイフォン市と協議を行った結果、両市の友好交流のさらなる深化を目指して、姉妹都市協定を締結することになりました。

締結式は、ハイフォン市長を代表とするハイフォン市代表団16人を迎え、4月18日に北九州市で行われました。ブイ・クオック・タイン在福岡ベトナム総領事の立ち会いのもと、北九州市の北橋健治市長と、ハイフォン市のズオン・アイン・ディエン市長が協定書に署名をしました。

また、締結式の後に行われた「姉妹都市提携記念祝賀会」では、両市長、およびタイン総領事のほか、北九州市議会、市内企業、関係団体など約100人が参加し、ベトナム人留学生の歌と伝統舞踊の披露や、「若松五平太ばやし」の演奏が行われる中、暖かな拍手とともに両市の姉妹都市提携を祝いました。



姉妹都市協定締結式（左からタイン総領事、ディエン市長、北橋市長）
記念祝賀会での五平太ばやし演奏

今回の姉妹都市提携により、両市の間でさまざまな分野の交流がさらに進み、ハイフォン市のインフラ整備や都市環境の改善への貢献とともに、都市環境インフラビジネスの推進や、両市の中小企業間のビジネス交流の一層の拡大など、アジアの活力を取

り込んだ本市の経済成長につながることを期待されています。

ハイフォン市との今後の交流

これまでに実施してきた上下水道、環境、経済などの分野での交流事業をさらに推進するとともに、新たな分野の取り組みとして、例えば、本市の教育機関とハイフォン市内の日本語学校との連携を支援するなど、市内のベトナム人留学生の一層の増加を図るとともに、ハイフォン市内の日本語教育の充実にもつなげていきたいと考えています。

また、ハイフォン市職員の研修受け入れによる両市ブリッジ人材の育成も引き続き継続するなど、今後も幅広い分野での交流を行っていききたいと考えています。

結びに

今回の姉妹都市提携は、北九州市として26年ぶりの姉妹都市提携となります。

日本全体の姉妹都市交流の傾向としても、これまでは欧米や中国・韓国との交流が主流でしたが、こうして東南アジアの都市との交流が広がっていくことは、まさに時代の象徴でもあると思います。

水道分野での技術協力や、「若松五平太ばやし」による市民文化交流など、幅広い交流事業により結びつきを深めている両市の都市間交流ですが、この姉妹都市提携により、ハイフォン市との関係がより緊密になって、両市の交流の一層の多様化や、両市にとってメリットがある交流の促進につながることを心から期待しています。

（注1）「東アジア経済交流推進機構」

環黄海地域における新たな広域経済圏を形成し、東アジア経済圏の発展に貢献することを目的として設立された日中韓10都市による組織体です。各都市の市長および商工会議所を中心に運営しています。（加盟都市は日本の北九州市、下関市、福岡市、中国の大連市、青島市、天津市、煙台市、韓国の釜山広域市、仁川広域市、蔚山広域市）

（注2）「若松五平太ばやし」

かつて北九州の若松港は、日本一の石炭積み出し港として隆盛を極め、その石炭は「川ひらた」と呼ばれる小さな船（この船を五平太とも言っていました）で運ばれていました。「川ひらた」の船頭たちが、激しい仕事の合間に船縁を叩きながら、流行り歌や民謡を口ずさんだのが五平太ばやしの始まりといわれています。その後、若松が生んだ芥川賞作家の火野葦平氏により作詞され、今でも脈々と受け継がれる郷土芸能です。太鼓の本調子・伴奏そして歌、踊りと動きも多彩で、リズムカルな太鼓の音色は、人の気持ちを浮き立たせてくれます。